



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症): 8月の報告

海外での感染が疑われる例として、[細菌性赤痢](#) 2 件(インド及び中国)、[デング熱](#) 1 件(タイ)、[マラリア](#) 2 件(1 件はインド、もう 1 件は感染地域不明)、[アメーバ赤痢](#) (3 件中 1 件がインドネシア)の報告がありました。海外では様々な感染症にかかる可能性があるため、渡航前に下記のホームページをチェックするなどして備えましょう。また、予防接種の証明書が必要な国もあります。

- ・FORTH 海外で健康に過ごすために(厚生労働省検疫所ホームページ) <http://www.forth.go.jp/>
  - ・感染症 これだけ知っていれば怖くない!(日本旅行業協会ホームページ) <http://tabitokenko.visitors.jp/>
- [腸管出血性大腸菌感染症](#)の報告が 7 件ありました。うち 2 件は家族内感染と考えられています。

## 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 7 月 25 日～平成 23 年 8 月 21 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<a href="#">咽頭結膜熱</a>		一部地域で警報レベルではありますが、市内ではほぼ終息したものとされます。
<a href="#">手足口病</a>		7 月末をピークに市内の患者数は減少していますが、まだ例年以上に流行している状態です。
<a href="#">ヘルパンギーナ</a>		7 月下旬から8月中旬に流行のピークを迎えました。患者数は昨年並みです。

大流行 流行 やや流行 散発 × 市内発生なし  
 増加傾向 横ばい 減少傾向

## 2. 今気をつけたい感染症

[ヘルパンギーナ](#): 夏場に流行する感染症のひとつです。主に乳幼児の病気ですが、大人が感染することもあります。ウイルスに感染してから 3～6 日程度の潜伏期を経て、発熱・喉の痛みで発症します。高熱が出ることも多いため、熱性けいれんを起こすことがあります。また、喉の奥に水疱ができて、やがて小さな潰瘍になります。重症になることは少なく、1 週間程度で治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎を発症することがあるので注意が必要です。この病気に対するワクチンや特効薬はなく、対症療法が中心です。患者さんの鼻の分泌物や便にウイルスが多く含まれているので、感染予防には手洗いが重要になります。

「感染症に気をつけよう 9 月号」は、8 月 25 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

